

倉敷中央病院

患者急増する心不全治療で成果

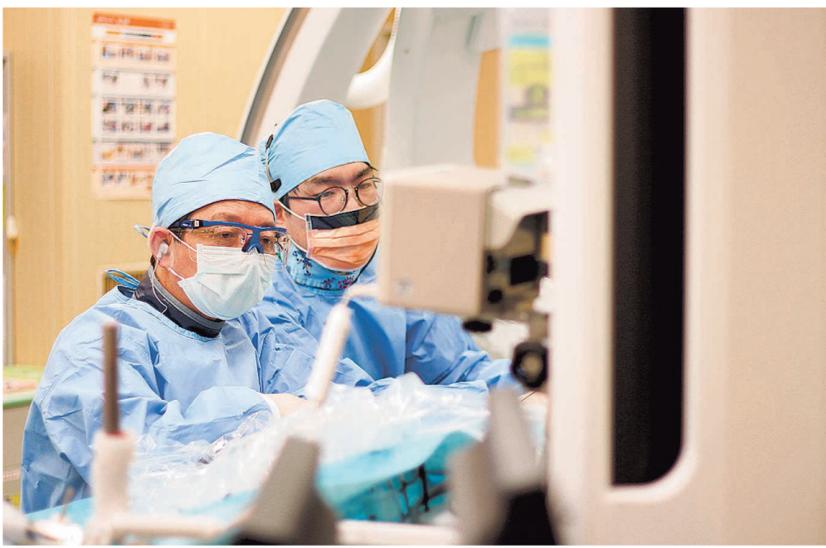
倉敷中央病院が提唱する「地域医療エコシステム」。各医療機関が得意とする機能・分野を生かし、みんなで協力して患者を診ていく仕組みは、高齢化を背景に急増する心不全治療で成果を上げている。循環器内科主任部長を務める門田一繁副院長は「『3人主治医制』という独自の取り組みを導入するなど、病院同士の協力態勢を構築できたことが成功の秘訣」と話す。(井上光悦)

門田副院長(循環器内科)に聞く

「心不全患者が急増している。心不全は体に血液を巡らせる心臓のポンプ機能が落ち、息切れやむくみが起き次第に命を縮めていく疾患だ。心筋梗塞や高血圧、弁膜症、不整脈などが原因となる。高齢化を背景に「心不全パンドミック(大流行)」と言われるほど国内の患者は増加し、現在の1200万人から2030年には1300万人に達するとする推計もある。年間800~900人が入院し治療している倉敷中央病院は全国トップの患者数になっている。地域の医療機関との連携を重視していると聞く。

理由は二つ。まず心不全は悪化して入院を繰り返すたびに体の状態が悪くなり、入院前のレベルに回復するのは難しいとされる。長期的な視野に立ち、再入院を防ぐフォローアップが重要だ。もう一つは高齢化する患者の存在がある。倉敷中央病院の心不全入院患者は平均80歳。治療しても体力が落ち、退院後に自宅で生活できないケースも増えてきた。やはりフォローアップが不可欠といえる。

しかし、一つの病院で利用できる医療資源には限りがある。そこで取り入れたのが「3人主治医制」だ。高度急性期病院「循環器内科専門医がいる地域密着型病院」「かかりつけ医



カテーテル治療を行う門田副院長(左) 倉敷中央病院提供



「3人主治医制」など心不全の医療連携について話す門田副院長(今中雄樹撮影)

命守る「3人主治医制」

「3人の主治医が治療を包括的に担当し、症状が安定している時はかかりつけ医、悪化した場合は地域密着型病院、場合によっては倉敷中央病院が治療を担う。そうした連携が可能になった理由は、具体的なツールとして、心不全で入院する患者に渡す「心不全地域連携クリティカルパス」の存在が大きい。入院から退院までの流れをまとめたロードマップのようなもので、引き継ぎ先の医療機関に持参してもらうことで、今までの診療の流れが簡単に確認できるようになった。患者自身も病状についての理解が深まる。

長年にわたり、顔の見える連携を心掛けてきたこともある。その一つが医療従事者らが集う「倉敷地域心不全連携の会」で、15年前から定期的に開いている。看護師や栄養士、薬剤師、介護施設の職員も加わってもらい、事例発表などに取り組んでいる。そうした活動もあり、地域全体で患者を診ようという意識が生まれたのだと思う。



心不全で入院する患者に渡す心不全手帳や地域連携クリティカルパス

一時危篤から社会復帰

心筋梗塞から心不全になり、一時危篤状態に陥った浅野友助さん(85)＝浅口市＝は倉敷中央病院で緊急手術を行った後、別の医療機関で治療・リハビリテーションを続け、社会復帰を果たした。病院間連携が奏功した形で、心不全治療のモデルケースになると関係者も注目する。主治医で循環器内科の川瀬裕一郎部長と当時を振り返ってもらった。

浅野さんは2019年秋、突如胸が痛み、自宅近くのかかりつけ医を受診した。心電図検査で異常が分かり、ドクターカーで倉敷中央病院に移った後、緊急でカテーテル治療を実施。意識は混濁し危険な状態だったものの、その後は順調に回復していったという。

入院期間が3週間を過ぎたころから、川瀬部長を中心に次の転院先をどうするか議論が始まった。入院により足腰が弱くなっており、すぐに自宅に帰るには無理がある。心不全治療分野で同病院が連携する医療機関のうち、自宅からも近い玉島協同病院(倉敷市)に移り、日常生活動作訓練や服薬・栄養指導などを受けてもらうことにした。

病院間協力態勢構築が奏功



主治医の川瀬部長(左)とがっすり握手する浅野さん(5月8日、倉敷中央病院 今中雄樹撮影)

「モデルケース」と期待

川瀬部長によると、循環器内科の専門医が常駐する玉島協同病院は心不全治療を継続できるほか、リハビリテーション分野が得意という。「体を動かす訓練をすれば、再び家に帰って生活できる。心不全治療の実績がある病院なので、安心して任せられた」と振り返る。

浅野さんは玉島協同病院退院後、自宅で訪問看護サービスを受けながら食事療法などにも取り組み、現在はかかりつけ医も利用しながら日常生活を送ることができている。「それぞれの病院で適切な治療が受けられたおかげ。命が救われたことに感謝です」と喜ぶ。

急増する心不全患者に対応しようと、倉敷中央病院は2016年から病院間連携を強化。同病院の専門医、地域密着型病院の医師、かかりつけ医による「3人主治医制」や「地域連携クリティカルパス」を設け、万全の診療体制を整えている。

川瀬部長は「各医療機関が得意分野を生かしながら、最適な治療を提供する。浅野さんのような症例をこれからも積み上げ、安心安全な地域をつくり上げたい」と話す。(井上光悦)

創立100周年 おめでとうございます

<p>倉敷国際ホテル 代表取締役 山口 勝正 倉敷市中央一丁目一四四 ☎(086)422-2151</p>	<p>倉敷アイビースクエア 代表取締役 藤原 秀則 倉敷市本町七〇〇一 ☎(086)422-1001</p>	<p>キングラン中四国(株) 代表取締役 市川 善浩 岡山市南区福浜町一三三四 ☎(086)262-1555</p>	<p>岡山トヨタ自動車(株) 代表取締役 梶谷 俊介 岡山市北区大供三二二二 ☎(086)233-1111</p>	<p>エルジオ 代表取締役 木村 容治 岡山市北区大内田七六四一三 ☎(086)292-1556</p>	<p>OEC(株) 代表取締役 佐藤 俊治 岡山市北区本町六十六番五号 ☎(086)227-1111</p>	<p>アイアットOEC 代表取締役 楠田 教夫 岡山市北区西三丁目一五〇番 ☎(086)227-1101</p>	<p>倉敷ヤンマー(株) 代表取締役 塚本 博視 倉敷市玉島一七四一 ☎(086)522-1051</p>	<p>斎久工業(株)岡山支店 支店長 五味 利生 岡山市北区柳町二六二二五 ☎(086)230-1750</p>	<p>新出光 広島支店 支店長 安武 信行 広島市南区福野町五八八番八 ☎(082)256-1656</p>	<p>高砂熱学工業(株)中四国支店 理事支店長 村木 剛尚 広島市中区錦町二二二番一 ☎(082)221-2871</p>	<p>高谷建設 代表取締役 高谷 耕治 倉敷市見島柳町二二六四 ☎(086)473-1364</p>	<p>玉島信用金庫 理事長 宅和 博彦 倉敷市玉島一四三八 ☎(086)526-1351</p>	<p>未来へ—— 安心を創る 私たちは誇りある伝統を未来に向けて革新し、人間性豊かな環境を創ります。「安心をお届けする」を基本に、時代を先取りした機能性と快適性を追求し、魅力ある企業として社会に貢献します。</p> <p>株式会社 藤木工務店 倉敷支店 〒710-0056 岡山県倉敷市藤形1-11-24 TEL (086) 422-3330 FAX (086) 424-7082 URL https://www.fujiki.co.jp</p> <p>100th + NEXT STAGE SINCE 1920 次世代へ</p>	<p>日本基準寝具にできること。 私たちは、お客様の「笑顔あふれる、心地よい暮らし」をご提供します。</p> <p>リネンサプライ事業部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入院セット ● 寝具リース ● マットレスリース ● ユニフォームリース ● ホテルリネン ● カーテンリース ● その他各種販売 <p>エコール事業部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉用具のレンタル・販売 ● 訪問介護 / 訪問看護 ● 住宅改修 / リフォーム ● 居宅介護支援事業 ● 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ● デイサービス ● サービス付き高齢者向け住宅 ● 生活支援事業 (リビングサポート) <p>株式会社 日本基準寝具 (岡山営業所) 〒710-0847 岡山県倉敷市東富井727-5 TEL (086) 434-6616 FAX (086) 434-6617 https://www.nihonkijun.jp</p>
--	---	---	--	---	---	---	--	---	---	--	---	---	--	--